

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性報告日）】

前週： 令和5年第10週 令和5年3月6日(月) ～ 令和5年3月12日(日)

今週： 令和5年第11週 令和5年3月13日(月) ～ 令和5年3月19日(日)

項目		前週	今週	前週比	これまでの最大値		
感染の状況	陽性者数	①総数	566人	463人	↓	22,063人	令和4年第30週
		医療機関報告分 ^{※1}	499人	405人	↓		
		セルフテスト陽性 ^{※2}	67人	58人	↓		
	②対人口10万人（総数）	36.8人	30.1人	↓	1,433人	令和4年第30週	
	③前週との増加比（総数）	1.10	0.82	↓	18.0	令和4年第1週	
④ 陽性率 ^{※3}		9.8%	8.4%	↓	64.3%	令和4年第30週	
医療提供体制	⑤ 入院患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	25人	27人	↑	368人	令和4年第31週
		（病床使用率）	5.2%	5.6%	↑	93.9%	令和3年第33週
		（確保病床数）	485床	485床			
	⑥ 重症患者 （陽性確定例）	入院中の患者数 ^{※4}	1人	0人	↓	68人	令和3年第34週
		（病床使用率）	1.4%	0.0%	↓	146.7%	令和3年第33週
		（確保病床数）	69床	69床			

※1 市内医療機関等から新型コロナウイルス感染者等情報把握・管理支援システム（HER-SYS）により報告があった1週間の陽性者数の合計

※2 自己検査で陽性となり、その旨を神奈川県に連絡・申請し、登録された方の1週間の合計（神奈川県記者発表資料の件数を基に集計）

※3 陽性率を算出するための検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム（G-MIS）により報告があった検査件数（速報値）の合算を用いております。

※4 直近の日曜日の報告数

<モニタリング項目の見直しについて>

令和4年9月26日に全国一律で発生届出対象の見直しが行われたため、モニタリング項目を再検討し、令和4年10月4日公表分からは「陽性者数」、「陽性率」、「入院患者」、「重症患者」に係る項目のみ掲載することといたしました。

<変異ウイルス検出状況>

川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関のゲノム解析によって確定された件数

系統		前週	直近1週間	累計
		R5.3/6 - R5.3/12	R5.3/13 - R5.3/19	R3.3/11 - R5.3/19
アルファ株		0	0	203
デルタ株		0	0	626
オミクロン株	BA.1系統	0	0	581
	BA.2系統	3	0	538
	BA.2.75	(3)	(0)	(53)
	上記以外BA.2	(0)	(0)	(485)
	BA.4系統	0	0	9
	BA.5系統	13	14	929
	BF.7	(5)	(2)	(48)
	BQ.1	(1)	(6)	(86)
	上記以外BA.5	(7)	(6)	(795)
	XBB系統	2	2	6
XBC系統	0	0	2	

※令和5年2月7日公表分から、BA.2.75、BF.7、BQ.1、XBB系統、XBC系統の件数を新たに掲載しております。

＜評価＞ 令和5年第11週（令和5年3月13日～3月19日）

令和5年第10週（前週）は、令和4年第52週より第9週まで10週連続して減少していた陽性者総数が若干増加しましたが、第11週（今週）は再び減少に転じました。いったん増加した前週との増加比も、第11週（今週）は再び1.0を下回り、減少となっています。

入院患者数は、令和4年第52週より令和5年第10週（前週）まで11週続けて減少していました。第11週（今週）は、第10週（前週）の25人から27人と若干増加していますが、ほぼ変化のない状態であると言えます。入院中の重症患者数は前週1人から今週0人となっていますが、こちらも大きい変化ではありません。

指標としている数値は、10項目中2項目が増加していますが、感染の状況としては減少、入院患者数、重症患者数に大きな変化はない、という状況です。

＜感染の状況：直近1週間＞

① 昨年暮れから現在にかけてのいわゆる第8波では、医療機関から報告された陽性者数は、第43週2,676人から増加が続き、第50週11,814人がピークで第51週より減少がはじまりました。本年に入ってから、第1週8,719人から第9週436人まで、昨年第51週以降11週続けて減少しました。第10週（前週）は499人と若干増加しましたが、第11週（今週）は405人と再び減少に転じ、かつ第9週436人も下回っているため、ほぼ13週連続して減少しているとみなせるかと思えます。

セルフテスト陽性者数は、第42週378人から増加が続き、本年第1週3,166人がピークとなりました。第2週1,873人から、第10週（前週）67人、第11週（今週）58人まで、10週連続して減少しています。

医療機関報告分とセルフテスト陽性者数の総数は、第50週14,457人がピークで、第51週より減少が始まりました。本年に入ってから、第1週11,885人から、第9週514人まで、第51週以降11週連続して減少していました。第10週（前週）は566人と増加しましたが、第11週（今週）は463人と再び減少に転じ、かつ第9週514人も下回っているため、ほぼ13週連続して減少しているとみなせるかと思えます。

② 対人口10万人あたりの陽性者数は、第50週938.8人がピークで第51週から減少が始まりました。本年に入ってから第1週771.8人から、第9週は33.4人と11週連続して減少しました。第10週（前週）は36.8人と増加に転じていますが、第11週（今週）は30.1人と再び減少に転じ、かつ第9週33.4人も下回っているため、ほぼ13週連続して減少しているとみなせるのではないかと思います。

③ 前週との増加比は、第44週1.73をピークにして第49週1.09まで5週続けて減少傾向となりました。第50週は1.22と増加しましたが、第51週は0.99と再び減少に転じ、9週間ぶりに1.0以下となりました。第1週0.97からもやはり多少の増減を繰り返しながら全体的な減少傾向は続きましたが、第8週0.63から第9週0.71と増加傾向となり、第10週（前週）は1.10と1.0を超えました。第11週（今週）は0.82と再び減少に転じ、かつ1.0を下回っています。

④ 検査陽性率は、本年第1週60.4%から減少が続き、第9週8.8%まで8週連続して減少していました。第10週（前週）は9.8%と増加に転じていますが、第11週（今週）は8.4%と再び減少に転じ、かつ第9週の8.8%を下回っており、ほぼ10週連続して減少しているとみなせるのではないかと思います。

＜医療提供体制等の負荷：報告日3月19日現在＞

⑤ 令和4年の入院中の患者数は、第7週335人がいわゆる第6波のピーク、第7波は第31週368人がピークでした。第8波は、第51週315人がピークで、本年は第1週274人から第10週（前週）25人と、第52週以降11週連続して減少していました。第11週（今週）は27人と若干増加しています。

が、状況としてはほぼ変化はないものとみなせるかと思えます。

入院病床使用率は、第6波では第7週70.2%がピーク、第7波では第31週75.9%がピークでした。

第8波は第51週64.9%がピークで、本年第1週56.5%以降は、第10週（前週）5.2%と第52週以降11週連続して減少していました。第11週（今週）は5.6%と若干の増加となっていますが、状況としてはほぼ変化のないものとみなせるかと思えます。確保病床数は現在合計485床です。

- ⑥ 入院中の重症患者数は、第6波では令和4年第8週30人がピークで、第21週から第25週の5週間は0人でした。第7波では第32週14人がピークで、第40週から第43週の4週間は1人でした。第8波は第49週に11人と増加した後いったん減少し再び増加、第3週の13人がピークでした。第4週9人以降、第5週4人→6人→1人→1人でしたが、第9週は0人となり、昨年第25週以来36週ぶりに重症入院患者数0となりました。第10週（前週）は1人と増加しましたが、第11週（今週）は再び0人となり、大きな変化はないと言えます。

第6波の重症病床使用率は第8週の43.5%がピークで、第21週から第25週は入院中の重症患者数0人のため重症病床使用率も5週連続して0.0%となっていました。第7波は第32週の20.3%ピークで第40週から第43週は1.4%となっていました。第8波では、令和5年第3週18.8%がピークで、若干の増減を繰り返しながら第7週・第8週は1.4%、第9週は0.0%となり、昨年第25週以来36週ぶりに重症病床使用率0.0%となりました。第10週（前週）は1.4%となりましたが、第11週（今週）は再び0.0%となっています。

重症者の確保病床は現在69床です。

<変異ウイルス検出状況>

第11週（今週）は、BA.2系統、BA.4系統ともに0件でした。BA.5系統14件中BF.7が2件、BQ.1が6件、それ以外のBA.5が6件。XBB系統が2件、XBC系統が0件でした。

昨年末より本年第9週にかけて、本市での新型コロナウイルス感染症は、陽性者・入院患者・重症患者数の減少が続いていましたが、第10週（前週）は、陽性者総数およびそれに関連した指標が増加傾向となりました。しかし、第11週（今週）はこれらはいずれも再び減少傾向となり、かつ前々週の第9週も下回っているところから、感染の状況は引き続き減少傾向が続いていると言えるかと思えます。しかし、このままさらに減少するのか、小さな増減を繰り返すのか、あるいは再び増加に転ずるかなどについては、注意をして見ていく必要があります。

なお、入院中の患者数は第10週（前週）25人から第11週27人と2人増加、入院中の重症患者数は同じく第10週（前週）1人から第11週（今週）0人となっており、依然大きな変化とはなっていません。

3月13日から、マスクの着用は多くの場で、一律ではなく、個人の考え、判断を尊重するとされました。地域の感染症の流行状況、周囲の混雑状況（密集状況）、ご自分がいる空間の広さや狭さ、その場にいる時間の長さなどの感染のリスク、目の前にいる人の重症化リスクの程度、不特定集団の中かどうかなどが、マスクを着けたほうがいいのか、着けなくてもいいのかの参考になるかと思えます。ただし、着用を呼びかけられているような場面では、できるだけ着用に応じて頂ければと思います。

外出時はマスクを携帯し、必要に応じていつでもマスクの着用ができるようにしておく、などはいかがでしょうか。

桜の開花が例年より早く聞こえてきておりますが、お花見などでもやはり感染リスクの高い所やあまりに混雑する場所・時間帯は避け、少人数でゆっくりと楽しみながら過ごされることをお勧めします。